



肝臓癌患者におけるビタミン B 群欠乏および抗酸化状態の低下

KEYWORDS// 肝臓癌, ビタミン B 欠乏,
抗酸化機能

本研究では、腫瘍-節転移状態の異なる肝臓癌における酸化ストレスおよびビタミン B 群の状態について検討した。患者は 2 グループ (I + II stage, III + IV stage) に分け、酸化状態を評価するために、酸化脂質、 α -トコフェロール、 β -カロチン、ビタミン C、グルタチオンおよび抗酸化酵素の血漿レベルを測定した。また、血液ビタミン B 群と血清グレリンを測定し、両者の関係についても評価した。III + IV stage 患者では、I + II stage 患者および健常者よりもグレリンが低く、コレステロール、中性脂肪および尿酸が高かった。肝臓癌患者では、血漿酸化脂質レベルは健常者よりも高く、グルタチオンペルオキシダーゼ、スー

パーオキシドジスムターゼおよびカタラーゼ活性は減少していたが、キサンチンオキシダーゼ活性は増加していた。血漿グルタチオンおよびビタミン C や赤血球中のビタミン B₂ および B₆ のレベルは著しく低かった。得られたデータは肝臓癌患者がビタミン B 群補充を必要とすることを示していた。また、血漿グルタチオンレベルは肝臓癌患者の酸化状態を評価するための適当な生物マーカーと考えられた。

(Lin CC, Yin MC : B vitamins deficiency and decreased anti-oxidative state in patients with liver cancer. Eur J Nutr 46 : 293-299, 2007)

(埼玉県立大学短期大学部 鈴木優治)